

「平和に対する想い」

	1 平和とはどのようなことを指すか	2 和光市が目指すべき平和なまちとは	3 和光市が平和なまちであり続けるために どのようなことが必要か
1	<p>戦争や紛争がない 人権が守られ尊重されること 誰もが貧困や差別から解放され幸福なこと</p>	<p>日本は唯一の被爆国です 二度と核の被害があつてはなりません 平和憲法を守りさらに発展させ 非核三原則を守り非核平和宣言都市を 宣言しましょう</p>	<p>過去の戦争の悲惨さを学ぶとともに語り継ぐ活動を通して若い方たちに 平和の尊さを知らせていくことが大切です 広島や長崎の被爆体験を知らせるとともに和光市でも戦争の被害があつた 現実を多くの方に様々な形（戦争展等）で学び合う場をつくって行って ほしいと思います</p>
2	<p>家族が元気。友達となかよく、けんかしてもすぐなかなおり。いつでも 飢えが無くしておなかがいっぱいにできること。優しい心で笑い声の絶え ない家庭。一人はみんなのために、みんなはひとりのためにできるこ と。どこの国の生まれだろうとお金持ちや貧乏であろうと年寄りや若者 や赤ん坊であろうと、男性や女性であろうと差別することなく、一人ひ とりが尊重されること。</p>	<p>核兵器の脅威をなくし、世界平和と人類の恒久的な安全・生存を保持す るため、非核3原則を守り核兵器のすみやかな廃絶と紛争と戦争のない 世界の実現を強くのぞみます。 和光市民は理念達成のため誇りと責任をもってここに「平和で安全な 町」「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。</p>	<p>私たちにできることは、77年前に起きた世界大戦で和光にも戦災死し たひとや被害者がいたこと、唯一日本に2発の原爆が落とされたことを 多くの人に伝えていくことであり、世界平和をめざすこと。今私たちに とって大切なことは、戦後の教訓から学び、作られた日本国憲法（平和 憲法）をまもること。 紛争は武力では解決しません。人殺しで解決はしません。 世界の人々と平和、友好、互恵の心で繋がること。</p>
3	<p>平和とは、必ずしも戦争の対義語ではなく、ひとりの人間として、その 発言・行動などすべての社会活動に自由が保障され、また人種・貧富・ 素性などによる差別が排除されること</p>	<p>非核を全面的に押し出す平和宣言にしたい</p>	<p>豊かな緑と湧き水を守るため、現状以上の破壊は即刻止めて欲しい。特 に、並木道は景観の保持ばかりでなく、酷暑から市民を守る一助にも なっていることを強く認識して欲しい。</p>
4	<p>ロシアのウクライナ侵攻が半年以上になっても終わらず、爆撃でたくさ んの人々が殺されたり街が破壊されている惨状を見ると、毎日平穏に生 活できる日常が如何に大事か痛切に感じています。 平和とは * 平穏に続く日常が、あること。穏やかに続く毎日とは、人が生きてい く上で必要な衣食住が保証され心配なく暮らせること。 * 思想、信条にかかわらず自由に生きられる社会（人権が保障される社 会）であること。 * 家族や、友人、隣近所そして自分たちだけではなく、広くは日本、世 界の人たちが仲良く繋がれること。 * 争いごとがある時は、武力でなく話し合いで解決できること。 * 相手を思いやる気持ち、愛をもてること。 ☆コロナ前、北原小で「読み聞かせ」のボランティアをしていました。 その中で、子ども達に平和の想いを伝えるメッセージとして下記の絵本 を活用していましたので、記しておきます。 「ピース・ブック」作：ドット・パール 訳：堀尾輝久 童心社 「へいわってすてきだね」詩：安里有生 画：長谷川義史</p>	<p>ヒロシマ・ナガサキのような原子爆弾の惨劇を見聞きしたりする中で、 また、ロシアの核をちらつかせる動きの中で。また、和光市にも、かつ て戦争の参加（新倉小に爆弾が落ちた）があつたことなどを聞く中で * 核の不安のない（非核）平和憲法を生かした、まちづくりが必要と思 います。</p>	<p>戦争の体験者が、少なくなっている中で * 戦争の惨禍が二度と起こらないように、ヒロシマ・ナガサキの惨劇を 子どもたちに毎年、繰り返して伝えていくことが大切と思います。 * 緑が少なくなりつつありますが、まだ残る緑道を保存し緑豊かなまち づくり、あちこちの湧き水や又、清流が流れる越戸川はカモやカワセ ミ、アユも生息し心む自然豊かな場所が貴重です。これらの自然を 守っていく街づくりの施策が必要と思います。</p>
5	<p>戦争のない、緑豊かな恵まれた自然環境の中で、あらゆる差別のない幸 せな生活を送ることができること。</p>	<p>「戦争のない、緑豊かな恵まれた自然環境の中で、あらゆる差別のない 幸せな生活を送ることができること。」を目指すべき。</p>	<p>世界で唯一の被爆国として恒久平和を守るために、日本国憲法が掲げて いる非核三原則を守り、核の脅威を未来に伝える努力を続けることで す。 この地を平和で美しいものとして、子どもたちに引き継いでいきたい。</p>

<p>ア 国や地域の治安が維持され誰もが将来に希望を持って安心して市民生活を送ることができる状態。</p> <p>イ 平和は決して人から与えられるものではなく我々の手で勝ち取るもの。</p>	<p>ア 治安が維持され誰もが将来に希望が持て、安心して伸び伸びと暮らせるまち</p> <p>イ 国を愛する気持ち郷土を愛する気持ちを育むまち</p> <p>ウ 差別のないまち</p> <p>エ 市民の生命・財産を守る準備の整ったまち</p> <p>オ 我が国の平和と独立を守る自衛隊を身近に感じられるまち</p> <p>カ 他国等から退避してきた人たちを受け入れる寛容さを備えたまち</p>	<p>ア 当たり前と思われがちな平和は決して人から与えられるものではなく我々の手で勝ち取るものであり、先人から享受した平和を次の世代へ繋ぐ努力。</p> <p>イ 国を愛する気持ち郷土を愛する気持ちを育み、身近な施策として慣習や条例に従い市の主要な行事を行う場合に国旗及び市旗の掲揚を励行する。</p> <p>ウ 差別のないまちづくり</p> <p>(ア) 人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別を受けることのないまちづくり（東京2020オリンピック・パラリンピック射撃競技開催地に相応しくオリンピック憲章から引用）</p> <p>(イ) 新旧住民がお互いを理解し合い助け合い一丸となったまちづくり</p> <p>エ 平和の維持が困難な状況に陥って社会に混乱が生じた場合においても市民の生命・財産を守るために必要な行動規範等の整備、防護施設等の整備、物資の備蓄、定期的・段階的な訓練の実施。</p> <p>オ 共存する自衛隊に感謝の気持ちを持つ。</p> <p>カ 情勢不安な国や地域から退避した人たちの受け入れに必要な計画等の整備</p>
<p>6</p> <p>世界に争い事が無い事。 争い事の火種が表れたら、武器（核）ではなく話し合いでの（平等の立場での）解決を互いができること。仲裁する中立機関がある事。 また、基本的人権が守られている政治が行われている事。</p>	<p>住民が「安心・安全」を実感する、できる町。 困難と思われる事態が生じたとき、丁寧な市の対応がある。 住民にやさしい町。 憲法9, 13, 25条が活かされた市政。</p>	<p>先の戦争で失われた多くの事を、後に伝えていく事で、平和の大切さがわかる。行事・学校教育など多くの場をもうけて欲しい。</p>
<p>7</p> <p>穏やかで 心地よいモノ。 平和な家庭。平和な街。平和がつくと 美しい景色 笑顔 清々しい空気が想い浮かぶ。</p>	<p>市民の心に町を愛する気持ちが湧水のように湧き上がって来る。郷土愛が子供から大人迄、心に溢れている。 その為に行政は知恵と税金を注ぐ。市民も大いに協力する。</p>	<p>先ず教育が非常に大切。 （平和な街であり続けるための方策を）おとな向けと子ども向けの二種類作り、地道にコツコツやる。 他町から転入して来る方々には、特別の判り易い教育をして協力して頂く。</p>
<p>8</p> <p>自由である事 平等である事</p>	<p>和光市は朝霞自衛隊のすぐ傍にあります。軍事的悪化の状況になるととても危険な街となります。その観点から市としても、市民としても平和を構築していくことがとても大事な事だと思います。 そして、今ロシアはいざとなったら「核」も辞さないと言っています。ただの抑止力としてだけではなく、兵器となる事を意味しています。 「非核」を入れて真の平和を宣言する街となってほしいです。</p>	<p>9</p> <p>☆戦争の歴史を学び悲惨な戦争体験を若い世代に引き継いでいく事 和光市も第二次世界大戦中に空襲にあい戦死者を出すなど悲惨な経験を持っています。また、戦時中の市民の暮らしなどを学ぶ事が戦争がいかに自由と平等を失わせていたかを身近に知る機会だと思います。 ☆緑豊かな街づくり 自然を壊し、高い建物を建て生活が便利になっても人の心ががさついてきたところに平和の芽は育ちません。緑と自然を大切にすることが平和を大切にすることへと育つていくと思います。</p>